



「レジェンド・オブ・ゾロ」

欧米映画の中での正義のヒーローの1人が「怪傑ゾロ」。黒い帽子に黒マスク、黒いマントをひるがえし、愛馬は黒のトルネード。疾風のように現れて、目も覚めるような剣さばきで悪人を翻弄し、「Z」の文字を残して、こつ然と闇に消えていきます。

古くはダグラス・フェアバンクス、テレビではガイ・ウリヤムス、あのアラン・ドロンも演じました。一番新しいのが1999年のアントニオ・バンデラス主演の『マスク・オブ・ゾロ』。それまでないアクションとスピード感あふれるゾロをつくりだしました。

今回はその続編。カリフォルニアの地で、愛する妻ヘレンと息子ホアキンの3人で暮らす。この地で、愛する妻ヘレンと息子ホアキンの3人で暮らす。この地で、愛する妻ヘレンと息子ホアキンの3人で暮らす。

★★★★★★★★★★★★★★ 21世紀の怪傑ゾロ登場

このシネマ
ガラス

山上カ岳よりも元祖という意味)と呼んでいます。役小角は現在の和泉山系、岩湊山、金剛山から葛城山までの長大な山中に「葛城二十八宿」と名付けた28カ所の信仰の行場をつくりました。葛城山を中心活動した役小角は人々に讃美をふれまわったとして、伊豆に流されましたが、超能力で一日に大峰山を往復したとされています。本尊は俱梨伽羅不動明王で、役の行者が彫つたとされています。剣に龍が巻きついた珍しい秘仏です。犬鳴山の名は、獲物を鉄砲で狙っていた獵師が吠える犬によって獲物を取り逃がし、腹いせに犬を撃ちますが、実は獵師を狙っていたヘビを知らせるためだったといいます。



七宝滝寺の境内にある役小角の像。史実と伝説が入り混じった人物ですが、日本書紀の中にも登場します

新年最初の「おおさか三国誌」は、イヌ年にちなんで「犬鳴山」にまつわる話を。阪和線の日根野駅からバスで犬鳴山へ。バス停の近くには犬鳴山温泉の名で数軒の旅館があります。犬鳴川に沿って山道を歩き七宝滝寺(しつぼうりゅうじ)へ。七宝滝寺を中心とした犬鳴山は一般的に山伏の名で知られる「修驗道」の開祖者者は、今も全国各地に残る「修驗道」の開祖として歴史の中に登場します。西暦661年、28歳のときに犬鳴山の七宝滝寺をひらきましたが、大峰山の開山よりも6年も古いことから、犬鳴山を「元山上」(もとさんじょう・本山の

ザ・見遊じあむ

..... 4

安藤忠雄さん設計の記念館



司馬遼太郎記念館

(東大阪市)

今年のNHK大河ドラマは司馬遼太郎の原作の「功名ヶ辻」です。司馬遼太郎が長年住んでいた東大阪市の住宅地に、司馬遼太郎記念館はあります。記念館の入り口は自宅の門がそのまま使われ、庭が使っていた書斎がそのまま残っています。机の上には、万年筆などの筆記具や、原稿を推敲するときに

中にはいると、まず驚かされるのは吹き抜けの空間に、高さ11メートルにも及ぶ大書架です。司馬遼太郎の蔵書のうち、2万冊あまりがギッシリとつまっています。館内の1階の奥から少しだけ見えるコンクリートの天井に、黒ずんだ影のような部分があります。よくながめていると、幕末の坂本竜馬の顔に似ていると感じます。

使った色鉛筆、大きなルーペなどが置かれています。

書斎を過ぎると樹木の中には、建築家・安藤忠雄氏の設計による記念館が。建物

の隠れた名物になっています。いま、その天井の下には竜馬の写真と紹介の新聞記事が展示されています。

使った色鉛筆、大きなルーペなどが置かれています。

書斎を過ぎると樹木の中には、建築家・安藤忠雄氏の設計による記念館が。建物